

平成 7 年 11 月 27 日

第 21 号

発行

社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより編集委員会

〒560 豊中市中塚塚 2-28-7

☎(848)1000



社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより

11/6~8 市民のボランティア体験 コーナーに 300人 盛りだくさんのプログラム グループ間の親睦も



十一月六日から八日の三日間、市役所の第二庁舎のロビーで「市民のボランティア体験コーナー」を実施しました。
この事業は、阪神大震災で多くのボランティア活動の方が、ボランティア活動に参加され、関心が高まっています。

ることからできるだけ多くの方にボランティアを知っていただくこと、豊中市社協ボランティア団体連絡会の企画グループの協力により実現したものです。
ロビーにずらりと並んだボランティア紹介パネル、車イスやアイマスク、対面朗読、手話、点字などの体験コーナー、手作りおもちゃ、手作り介護用品展示コーナー、ビデオコーナー、ボランティア情報コーナーなど盛りだくさんの内容で、三日間で約三百人の市民の参加をえました。

ボランティア活動の相談にこられた男性は、一定年退職して、ボランティアをはじめてみたいが継続できないか不安。活動している人

震災支援活動報告会

八月二十二日、市立中央公民館とアーク文化ホールで被災された高齢者を元気づけ、社会参加の意欲回復を目的に「ふれあい虹づくりフェスタ」(財団法人長

寿社会開発センター・元氣回復ふれあい事業大阪実行委員会主催)が開かれました。

当日、震災支援ボランティア活動報告会をはじめ、被災地高齢者カラオケ大会などが行われました。

活動報告会では、府下最大の被災を受けた豊中市の震災支援ボランティア活動について市社協事務局より報告した後、大阪市立大学の秋山智久教授の進行でパネルディスカッションが行なわれました。

パネラーからは、今回の支援により地域の連帯感が高まったこと、平常時の小地域福祉活動の必要性、必要となる人への支援の難しさ、初めてボランティアとして活動した感想など熱の入った報告会となりました。

震災支援活動の記録

登録人数 1,885名 (H.T. 2月現在)
(男女比 男性688人 女性1,197人)
市内登録者926名
市外登録者959名
大阪府内847名、兵庫県42名、京都府28名、奈良県17名、和歌山県5名、滋賀県2名、栃木県1名、埼玉県1名、東京都6名、神奈川県3名、愛知県2名、岐阜県1名、岡山県1名、広島県1名、千葉県2名

主な活動内容

救援物資仕分け・搬送	110回	1,031人
食料配達	67回	638人
避難所お手伝い	351回	979人
避難所の障害者・高齢者の介助	94回	250人
避難所の巡回健康相談	8回	9人
在宅障害者・高齢者の介助、家財整理、荷物整理、引越し	169回	469人
避難所調査・現況調査・記録	25回	117人
募金活動	13回	102人
その他(通訳・運転・保育・震災貸付)	51回	120人
救援物資パック配達	24回	48人
センターでの業務・需給調整		1,404人
合 計	912回	5,167人

ボランティアは今

私は、今から七年前、六十五歳の退職を迎え、ほとととする解放感に浸っていました。
それにもかかわらず、無為の不安と得たの知れないむなしさにおそわれました。
「これは危ない」と思いつかねてより妻の勤める二年間の通信教育の受講で、これを切り抜けることができたように、福祉を支えるボランティアの入り口にたどりつきました。
そして、一人暮らし老人に友愛電話訪問を行う市社協登録ボランティアグループ「聴く会」に参加し、五年が経過しました。
この間、一人暮らしの老いをどのように迎え、過し、明日に向かうか、その生き様に目が開かれ、内に秘めたエネルギーに感動しました。



～身近な地域での支えあい～

ボランティアセンターとの連携や、必要に応じて各専門機関との調整を行いながら、年をとっても、障害があっても赤ちゃんからお年寄りまで安心して暮らせる町を目指し各地域で取組みが行われています。

平成4年度	南桜塚・桜塚
平成5年度	原田・豊島・刀根山
平成6年度	中豊島・上新田
平成7年度	西丘・北丘・東豊台

地域内でボランティアとして協力してもらえる人を養成するため講座を開催しています。



ひとり暮らし老人の通院介助をはじめ、家事援助、障害児の養護学校の送迎など地域に寄せられた相談をもとに生活支援しています。



高齢者二人世帯や高齢のひとり暮らし老人、老人介護者等を対象に配食し、見守りをしています。



校区内の虚弱や痴呆性老人等の方々を校区役員宅で校区ボランティアが昼間お話し、介護者の介護負担の軽減を図るため実施しています。市社協ボランティアセンターや保健所との連携で行われています。



校区内の高齢者や障害者などが安心して暮らせるように民生委員や当事者組織、各種団体と協力し、問題の早期発見に努めています。

地域内で対応する世帯への援助
内容の質の向上や、他機関との連
携のためにケース検討会も随時行
っています。

この事業は、日常生活の中で手助けが必要な、高齢者の自立を援助し、社会生活を楽しむでもらおうと、地域で自主的に支援活動をしているグループが昼間の介護サービスを行う施設で平成6年4月よりスタートの運営補助を受け、スタートしたものです。

この施設は、家庭的な雰囲気をもつ上に日曜（第一日曜は休み）祝日も受入れられておられることが何より、も介護者にとって良いことだと感じました。

市内には、ここ以外に新千里南町に「BGMなみー本町の「やすらぎ会」大黒町の「ゆかた会」というシルバーデイハウスが3か所あります。

年を重ね、ハンディを背



負うようになってゐても家庭で地域で過ごしていきたいと願う多くの思いをかなえる形態としてこうした輪がますます広がることを願ひつつ「さよなら」しました。
(ステッキ 斎藤杏子)

編集後記

ポランティア 帯給調整報告

今年度は、阪神大震災の支援活動からポランティア元年といわれますが、福祉活動へのポランティア登録は例年とさほど変わりありません。ただ、震災支援活動をしていただいた方が、引き続き、ポランティアとしてご協力いただいたことから男性の若い層のポランティアが増えました。

依頼内容は、高齢者、障害者からのものから急激に子育て支援の相談が増え、仮設住宅や応急住宅からは今までの近所付合がなくなつたために援助を求める声も多く、改めて地域のつながりの大切さを感じています。

世の中の変遷の目まぐるしさは、のほほんと過ごす訳にはいきません。老いも若きも生きる証を見極めましょう。「ポランティアセンター」だよりも幅広く愛読していたくようになりスタッフ一同嬉しく思っています。